

2020年5月29日

「With コロナ」あるいは「Post コロナ」時代の立命館慶祥

立命館慶祥中学校・高等学校

校長 江川 順一

新型コロナ（COVID-19）に対応されている生徒の皆さん、そして保護者の皆さま、立命館慶祥中学校・高等学校を代表して、皆さまのご健康と命の安全を心から願っております。

5月8日、この挨拶から始めた校長メッセージを学校HPに掲載してから、3週間が経ちました。私の思いは3週間前と変わっておりません。皆さまのご健康と命の安全は、しっかり守られているものと思っております。幸いなことに、本学の生徒・保護者・教職員について、感染者の情報はもたらされてはおりません。

5月25日付けで、北海道は『『新型コロナウイルス感染症』感染拡大防止に向けた『北海道』における取組』を公表しました。政府による緊急事態宣言の解除を受け、これまで実施してきた緊急事態措置を解除する一方、未だ感染者が確認されている状況を踏まえ、引き続き、感染症の蔓延防止に向けた取組を進めるとともに、「3密」を徹底的に避け、感染を予防する「新しい生活様式」の実践など「新北海道スタイル」の構築に取り組むという方針を示したものです。この取組とともに、大学等を除くすべての学校が5月31日まで臨時休業を要請されています。

立命館慶祥は、5月7日から、オンデマンド授業やライブ授業を積極的に取り入れ、インターネットを介したオンライン授業を行い、時間割どおりの完全在宅学習を実施してきました。在宅学習は、授業を行わずに学習課題のみに頼る臨時休校とはまったく異なるものです。この間、教室やスタッフルーム、Co-Tan、情報教室、アトリウム、スタッフルーム前の自習スペースなど、学校の至る所で、教員がPCを前に奮闘する姿を見ることができました。HR担任も、教科担任も、必要に応じてZoom等を用いてPC画面に映る生徒の顔を見ながらSHRを行ったり、オンデマンド授業のための動画を作成したり、ライブ授業そのものを行ったりしております。

授業のない私は、校舎内を歩き回るのが授業の代わりと心得て、中学棟と高校棟の1階から3階までを隈なく覗きつつ、両棟を行ったり来たりしております。教員の朗々たる声とチョークが黒板を叩く音が聞こえる教室を覗くと、ライブ配信授業の最中でした。生徒の音が聞こえる教室を覗くと、PCの前に座った教員がYouTubeにアップした解説動画を閲覧させた後、Zoom画面の生徒の質問に答えている最中でした。他の教室では、あらかじめメールで送信してあった学習課題を解かせて解答している教員がいたり、パワーポイントで作成したスライドに説明を吹き込んでいる教員がいたり、生徒が提出した小論文を添削している国語科の教員がいたり、ライブ授業でストレッチ体操を教えている保健体育科の教員がいたり。立命館慶祥の教員は、最も効果的な授業を模索し、さまざまなツールを用いて、オンライン授業を実施していました。

以上のように、ざっとご紹介した5月7日からの3週間のオンライン授業について、生徒の皆さんや保護者の皆さまから、メリットもデメリットも含めたお声をいただいております。

メリットとしては、友達がいなくて授業に集中できる、聞き逃しを繰り返し聴くことができる、時間割どおりの授業なので生活リズムが保てるなどの評価をいただいています。また、デメリットとしては、自己管理を試されることが負担に感じる、使用するツールが多く混乱する、データ通信容量が厳しいなどの苦情もいただいております。

オンライン授業は始動したばかりであり、教員も手探り状態です。生徒の皆さんも、つい2ヶ月前まではZoom や Skype の存在すら知らなかったであろうに、果敢に挑戦してくれたばかりか、オンラインの各種ツールに適応していることに、皆さんの能力の高さを実感しています。私たち教職員も、皆さんのスキルアップを目の当たりにして、誇らしい気持ちで一杯です。とりわけ中1の皆さんの適応力には驚きました。

デメリットとしていただいたご意見については、更なる改善を図ることにより、よりよいものにするので応えていきたいと考えております。オンライン授業は、新型コロナにかかわらず、今後、学校教育に不可欠なツールとなることは間違いありません。世界はこれから5Gの時代に突入し、社会の変動に合わせて教育の在り方も変わることが容易に推測できます。私立立命館として、学習の個別最適化を図る効果的な学習方法の検討を進め、道内他校にはない、オンライン授業の可能性を追求していきたいと考えております。

このことの実施のためには、通信環境の整備、PC やタブレットの準備など、保護者の皆さまのお力添えをいただかなくてはならないことも大きな課題です。

あと数日で5月が終わろうとしています。立命館慶祥は完全在宅学習を終了し、公立学校は一斉臨時休校を終えます。すでに5月22日付けの文書によりHPに掲載してご案内したように、慶祥は登校再開に当たり、6月1日から27日まで分散登校を行います。分散登校により、スクール便の「3密」、HR教室の「3密」を回避します。スクール便については乗車人数減による効果、HR教室についてはより広い空間をもつ特別教室等への変更による効果により、「3密」を回避します。

5月4日、厚生労働省は、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を公表しました。また、5月22日、文部科学省は、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」を提案しました。後者については、学校の教育活動を再開するに当たり、可能な限り感染拡大のリスクを低減させながら教育活動を行うため、学校衛生管理の観点からの工夫について解説したものです。立命館慶祥は、このマニュアルに則りつつ、更に高いレベルでの衛生管理に努めます。

手指消毒用のアルコールや手洗い用の液体石鹸をあわせて80本以上のボトルに入れ、校内各所に配置しました。また、校内のあらゆる教室の机・椅子・取っ手等を徹底的に消毒しました。加えて、ソーシャルディスタンスを保つため、トイレ前やスタッフルーム前にラインを引いたり、食堂の椅子を間引き機の配置変更により対面をなくしたり、玄関受付・食堂受取口・スタッフルームカウンター等に対面用ビニールシートを設置したり、可能な限り感染リスクを低減させるための準備を整えています。

学校の主役は、教員でも職員でもありません。それは、生徒である皆さんです。皆さんがいない「学校」は、学校ではありません。皆さんが学校に戻ってくる6月を、本当に楽しみにしています。

私たち立命館慶祥の教職員は、この困難を乗り越えた「With コロナ」あるいは「Post コロナ」において、立命館慶祥の多様性を尊重した教育、立命館慶祥で学ぶ多文化共生の精神が、更に輝きを増す時代が始まると確信しております。それまで、生徒の皆さん、保護者の皆さまとともに、心をひとつにして、この困難を乗り越えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。